熊本県内初！SUPの事故が発生しました

～「安全に活動できる準備」あなたはできていますか？～



事故事例（2019年4月発生）

八代海側の海水浴場において、大人３名がSUPで海に出たところ、うち２名が風で沖に流され帰還困難となった。自力で岸に戻った１名が118番通報し、無事救助されたが流された２名は低体温症のため病院で手当を受けた。

【事故当時の気象・海象】
風速10m/ｓ、波高0.5m
気温21度、水温19度

事故原因

事故当時、海水浴場の風は、オフショア（沖に向かって吹く風）で、強風注意報が出ていたにも関わらず海に出てしまったことが事故の原因です。

SUPとは・・・「Stand Up Paddle Board」の略称

海・川・湖などでサーフボードの上に立ち、パドルを用い水面を漕いで移動する新しいマリンレジャーのひとつです。

この事故を受けて、必要な装備品、活動時の注意事項及び事故事例以外にもどのような危険が潜んでいるか経験者からお話を伺いましたので紹介いたします。

～はじめに～

活動前の天気予報と現場の海の状況を確認

SUPの活動で注意が必要な気象条件とは・・・？

重要

ＳＵＰボードは風の影響を受けやすいためオフショア（沖に向かって吹く風）が吹いた場合、沖合に流される危険性が高くなります。また、それぞれの海域によって注意すべき箇所が必ず存在するため初心者のみで活動中の事故も発生しています。初心者の方は経験者と一緒に活動した方がより安全です。

実際に風や波の影響はどの程度のものなのか体験した人の声を聞いてみました！



体験者のコメント

風の影響（向かい風）

岩場のトンネルを通過する際、吹き抜けの風が５m/s（体感）以上の向かい風が吹いていました。パドルを漕ぎ続けないと押し戻されるため、一生懸命漕いだものの、じわじわと前に進むことしかできませんでした。（体感スピードとしては徒歩よりも遅いくらい）
長くは体力が持たないと思いましたが、トンネルを抜けると風は収まりました。沖合いで風が吹いて帰れなくなる事故があると言うのがわかったような気がします。

体験者のコメント

波の影響（追い波）

私がSUPを体験した場所は外海に面していたため、風が吹いていない日でも、多少のうねりが存在します。
前、横方向からの波に対してバランスを崩すことはないと思います。
ただし、追い波を受けるとボードのテール（尾部）が急に立ち上がるため、バランスを崩して落ちてしまいました。
向きを変え追い風になるとスムーズに進めましたがＳＵＰは風や波の影響を受けやすいと感じました。



活動前の注意

- 初心者の方に合わせたコースを組み立て経験者と確認します。

➡ 風や波の影響を受けにくい沿岸部近くで活動しましょう。

- コース上に漁船などの船舶が通航するところ、漁具が設置されているところ、素もぐり漁をしている場所などをさけることも大事です。周囲を常に見張っておくことが大切です。

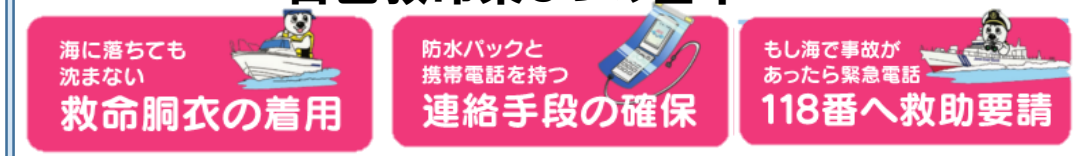
➡ 地元の方の話に耳を傾け情報を得ることも重要です。（熟練の経験者談）

- 家族等にメールや電話で今からどういうコースに誰と出発し、何時頃帰るか連絡しておきましょう。

➡ 事故が発生した場合は、直ちに１１８番通報してください。（下図参照）

SUPの事故情報や安全に関する詳細情報は
二次元コードからアクセス又は
『ウォーターセーフティガイド』で検索

二次元コード



携帯電話で緊急通報（救助要請）する場合のワンポイント！

GPS機能を入りの状態で、110番（警察）、118番（海保）、119番（消防）に通報すると、ピンポイントで位置が分かるため、早期発見、救助に繋がります。

- 出発前の装備の確認（次ページ参照）

➡ 初心者の方は経験者と共に装備を再確認します。装備品の事前点検を確実に行ってください。

SUPの装備

出発前の装備の確認

ライフジャケット
法律上の着用義務はありませんが命を守るためには着用しましょう。
またSUPは船から見えにくいといわれています。
出来るだけ目立ちやすい色の救命胴衣を着用しましょう。

リーシュコード
ボードが流出しないために確実に装着しましょう。

防水パック入り携帯電話
緊急時の連絡手段を必ず確保しましょう。

飲料水
長時間活動する場合には必ず飲料水を携帯しましょう。



ＳＵＰの装備（＋α）



キャップ
熱中症対策のため、キャップを着用するのが好ましいでしょう。



ウエットスーツ
水温が低い場合は体温低下を防ぎます。



マリンシューズ
（すべりにくいもの）

マリンシューズ
活動する海域周辺が磯場などではマリンブーツを準備しておくと良いでしょう。

その他の注意事項

活動中

ボードに立った姿勢のまま、漕いでみると重心がブレてしまい足元がふらついてしまう場合があります。ボードの上で立ち上がる際には、周囲に岩場及び遊泳者から離れた場所であることを確認しましょう。



重要

立ち漕ぎでは前屈動作になるため自然と目線が下がってしまいます。漕ぐことに夢中になって周囲を見ていないと瀬、岩場にぶつかってしまったり、風や波の影響によって知らない間に沖合いに流される危険があります。

転落時



バランスを崩して落ちた場合はパドルが顔に当たって怪我をしないように注意が必要です。

また、落ちる際にパドルを離してしまうと風や波の影響により流されてしまう可能性があります。パドルの種類によっては中が空洞の物の場合、水が入り海中に没するおそれがあるためパドルの取扱いには注意が必要です。

まとめ

～ＳＵＰを安全に楽しむための注意事項～

気象情報の常時確認

風向きのチェック

コース周辺の船舶の通航実態の把握

出発前の装備品の確認

SUPを安全に楽しむために

「適切な格好」と「天気の確認」出来ていますか？



事故事例

八代海側の海水浴場において、大人３名がSUPで海に出たところ、うち２名が風で沖に流され帰還困難となった。自力で岸に戻った１名が118番通報し、無事救助されたが流された２名は低体温症のため病院で手当を受けた。

事故原因

事故当時、海水浴場の風は、オフショア（沖に向かって吹く風）で、強風注意報が出ていたにも関わらず海に出てしまったことが事故の原因です。

SUP利用上の注意点

●海上の気象・海象は急変するので･･･気象情報を常にチェック！

●オフショアの時は岸に戻れなくなる可能性があるため･･･風向きをチェック！

●風に流されやすいので･･･風の状況によっては、中止を決断する勇気を！

●船舶から見えづらいので･･･目立つ服装をする！　船の通航する場所に行かない！

事前に遊ぶ海域の通航実態を確認する！

●安全を確保するために･･･出港前に装備品などの確認を！

- □ボードの空気漏れや損傷の有無
- □リーシュコード、パドルの損傷の有無
- □救命胴衣の着用（浮力確保）
- □防水パック入り携帯電話の携行
- □キャップ（帽子）の着用　□飲料水の携行
- □ウェットスーツの着用（低体温症予防、浮力確保）



SUPの事故情報や安全に関する詳細情報は二次元コードからアクセス又は『ウォーターセーフティガイド』で検索

二次元コード

自己救命策3つの基本

- 海に落ちても沈まない **救命胴衣の着用**
- 防水パックと携帯電話を持つ **連絡手段の確保**
- もし海で事故があったら緊急電話 **118番へ救助要請**

携帯電話で緊急通報(救助要請)する場合のワンポイント！

GPS機能を入りの状態で、110番（警察）、118番（海保）、119番（消防）に通報すると、ピンポイントで位置が分かるため、早期発見、救助に繋がります。

お問い合わせ　JCG　熊本海上保安部交通課　〒869-3207　熊本県宇城市三角町三角浦1160-20　0964-52-3105　海の安全情報　検索

ウォーターセーフティガイド

海上保安庁では、カヌー、ＳＵＰ、ミニボート、水上オートバイなどのウォーターアクティビティを安全に安心して楽しむための情報をまとめた総合安全情報サイト「ウォーターセーフティガイド」を開設しています。是非ご覧ください！

https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00_totalsafety.html

Water Safety Guide
海上保安庁

海の安全情報

海上保安庁では、全国各地の灯台などで観測した気象・海象の現況、海上工事など「海の安全情報」を提供しています。

https://www6.kaiho.mlit.go.jp/

